

令和5年度 学校評価シート 〈最終報告〉

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施。保護者アンケート実施 これらの結果を考察して以下のようにまとめました。

*評価:A:「十分に達成された」、B:「おおむね達成された」、C:「やや達成されなかった」、D:「達成されなかった」で評価

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
支え合う・聴き合う・学び合う学校 〈めざす児童の姿〉 自ら課題を設定し、幅広く情報を集め、仲間と力を合わせて取り組む子ども	○支え合う 分からない時に遠慮せず「教えて」と言えること 「教えて」と言われたら、自分のすべてを使って伝え、支えること	A	<ul style="list-style-type: none"> 気軽に友達に質問して考え合う雰囲気はできてきたと感じる。しかし、自分の力で粘り強く考えたり、調べたりする姿も大切ではないかと思われる。そのバランスが難しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も村瀬先生のご指導をいただき、実践の積み重ねができた。友とかかわる姿が日常的になってきたことで、「個の力をつけるための集団づくり」という次の段階に移ってきたと考える。来年度も村瀬先生に指導をいただく機会があるので、さらなる授業改善に取り組みたい。
	○聴き合う 互いの声に耳を傾け、聴き合うこと。教室に言葉が響き合うこと	A	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックを使って自分の考えを入力する、それをみんなで見合う、という姿が日常になってきたのはよいと思う。しかし、みんなの前で自分なりの言葉で発言する力や、それをしっかりみんなで聴き合うという姿も大切にしたいと感じる。言葉が響き合うという点では、さらに改善のための取り組みが必要と感じる。 顔を見て伝える、顔を見て聞くことができなくなっているように思う。相手意識をもっと持たせる必要があるのではないかと感じる。 職員評価では、「聴き合う」のA・B評価が前期よりも高くなった。意識ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席の工夫を取り入れていた学級があった。互いの声に耳を傾け聴き合うことを意識した取り組みである。重点目標の実現に向けて「こういう工夫をしたらどうなったか」というように、意識して取り入れた工夫を実践してみて児童の様子はどうなったのか振り返ったり、職員間でそのような実践を情報共有したりしながら、よりよい方法を探っていきたい。 クロームブックを使う場面が増える一方で、相手意識をもつことや、フォーム内ではなく目の前の人に向けて発信することの大切さを実感できた。来年度はこれらのことを大切に指導していきたい。
	○学び合う 友と協働し、探究的な学びが深まること	B	<ul style="list-style-type: none"> 間違いや失敗を恐れずに、自分の意見や考えを表出できるようになってきた。「合っているか間違っているか」だけではなく、どうしてそう思ったのか、を聞く理由が自分の言葉で語れる児童が増えてきた。意見を担任に向けてではなく、「〇〇さんと同じで」「〇〇さんとは違うけど」というように、児童と児童が対話していくような場面がもっと増えるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇さんと同じで」「〇〇さんとは違うけど」という言葉が飛び交うには、互いの声をしっかりと聴くことが大切である。聴き合うことについては職員での意識が高くなってきているので、さらに聴き合える習慣をつくっていくために、職員間でどんなことに気を付ければよいのかなど共有を図り実践したい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> わくわくコンサートは、無理ない選曲から、時数を特別増やすことなく取り組めた。より良い演奏ができることは、音を合わせる楽しさだけでなく、姿勢や静寂も大切であること、心を寄せて聴くこと、やり遂げた達成感等多くの学びがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを育てる行事の在り方について、目的を共有しながら、子どもの目線から引き続き検討していきたい。行事を通してつける力も大切にしたい。
		◇どの子どもも安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 教室の机配置を児童とともに考え決めだしてきた学級の実践があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級づくりを語る会」などで、学級の工夫が共有された。「こうすればよい」というやり方ではなく、実践と反省を繰り返していく教員集団でありたい。引き続き、掲示や机の配置等、あらゆる面で実践してきたこととその成果について共有を図りたい。
	学習指導	◇協働的な学びの充実	教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価では前期に比べ評価がやや下がってきている。一方で教員評価では子どもの声に耳を傾けているという肯定的な評価が高く、児童と教師の間には認識のずれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の“声にならない声”をいち早くキャッチできるようにしたい。そのために、学年や関係職員など広い目で児童を見ていくことや情報共有することを組織として行いたい。
		ジャンプのある課題設定ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の意識は高くなってきている。職員評価では、前期と比べると肯定的な評価は上がっているが、A評価がない点をどう受け止めるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題をつくるのが目的になってしまわぬよう、その課題を通してつきたい力を明確にした上で、「設定ができたか」ではなく、「ジャンプの課題になっていたか」というように、児童の視点で振り返りたい。(こういう場面でこう言う問いかけをしたら児童はこうなりこういう学びができた、というように。) 	

		友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が安心して授業に臨める要因の一つになってきた。ペアやグループでの活動が日常的に行われてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 村瀬先生のご指導の中で出てきた「お隣さん」のような気軽な関わりは日常的に取り入れていきたい。学びが深まっていくかどうかは、今後の実践を引き続き行っていく中で考えていきたい。 	
	◇体育学習の充実	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 運動が得意な子、苦手意識のある子との間で、運動に向かう主体性に差が出てしまった。 個別に目標を持てるように、カードを作成して取り組んだ「忍者修行」や「なわとび」は、他者と比べることなく、自分を高めようと意欲的に取り組んでいたと思う。休み時間にも自主的に取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の「苦手な児童への配慮」を参考に、どの子でも活躍できる場づくりやルール作りを工夫していく。 体育の授業でも「協働的な学び」を実践したい。どの子も安心して取り組める（苦手を受け入れられ、自分を出せる）学びの場をつくっていく。 	
生活指導	◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 11月の参観日で、6学年全クラスで「あけぼの」を扱ったことは、人権同和学習の内容を保護者に知っていただく機会となった。また、それを第三中学校の人権担当の先生に見ていただき、小中連携の面からもよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育については、月間に限らず日常的に意識して行っていきたい。 児童評価の結果から、悩みなどを先生に言いづらい児童もいることが分かった。多くの職員で児童を見ていくことや情報を共有することなど組織として取り組んでいく。 	
	◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間にもペアと関わりたがるほど、1年生にとって6年生の存在は大きかった。遊びに行ける場所や遊んでくれる異年齢がいることで、安心して過ごすことができた。6年生が忙しかったら「また来ます」と伝えることを学習し、少しではあるが相手のことを考えることができたかと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童評価では、ペア学級の活動が児童にとって大変満足していたことが分かる。コロナ禍があげたので、日常的な交流場面を積極的に増やしていきたい。 児童会活動等で相手のことを考えて向き合う機会を増やしたい。なぜその活動をするのかを伝えたりやり方を説明したり、どう発信したら相手に伝わるのかも考えさせたい。聴こうとしても内容を聞き取れず理解されていないこともある。相手意識を育てるという視点で、職員の共通理解を図りたい。 	
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活科では「地域探検」を行った。自分が住む近隣だけでなく、広く地域を歩くことで、いろいろな発見があったり、次につながる発見があったりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に出て学ぶ学習は引き続き大切にしたい。「この学年はこれをやる」というようなテンプレート化された活動ではなく、児童が発見していくような展開を期待したい。
		◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> 畑で作った「大豆」から、みそや豆腐を作る活動につなげ、地域ボランティアから作り方を教えていただいた。校内だけではできない、深まりのある学習となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習と同様に、テンプレート化された活動ではなく、活動から地域とのつながりを生み出していけるような活動にする。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員評価では、前期に比べ評価が下がっている。職員の研修への意識が下がった為ではなく、互いの授業を見合う場が日常的に設けられなかった為である。時間的な難しさもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に直接結びつかないかもしれないが、職員連絡会の最後の場面で、各学年の児童や実践紹介をし始め、職員の経験の長短に関係なく互いに学び合う集団をつくるうえで意義のある時間となった。来年度もこのような時間を設けられるとよい。